

第 3 回安曇野市消防委員会

1	審議会名	安曇野市消防委員会
2	日 時	令和 4 年 9 月 13 日 午後 6 時 30 分から午後 7 時 50 分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎 4 階 大会議室
4	出席者	寺畑委員長、小林職務代理、井口委員、伊藤委員、草深委員、 小室委員、臼井委員、百瀬委員、塚田委員、小澤委員、 上原委員（消防署長）、二木委員（団長）、 危機管理課 消防防災係 係長 村田 担当 今井、有坂、赤澤
5	公開・非公開の別	公開
6	傍聴人	0 人 記者 0 人
7	会議概要作成年月日	令和 4 年 9 月 27 日
協 議 事 項 等		
【会議の概要】		
1	開会	
2	委員長あいさつ	
3	会議事項	(1) 諮問書に基づく検討課題について ア 消防団分団等運営費補助金について
4	その他	
5	閉会	
【会議事項】		
	(1) 諮問書に基づく検討課題について	
	ア 消防団分団等運営費補助金について	
		・資料を基に事務局から説明。
委員長：		事務局からの説明を受け、委員一人ひとりから考えをお聞きしたい。 まずは、二木委員から、現在の消防団活動の状況と併せて意見を伺いたい。
委員（団長）：		国からの通知により、報酬が個人へ支払われることは理解できるが、それにより分団の運営費が乏しくなり、団員の士気低下に繋がることは避けてもらいたい。また、装備品などについては、市で購入していただき、各分団に配備してもらえればと思う。 ただ、団員の皆さんが活動する上で、会議や日頃の活動に対する労い、団員同士のコミュニケーションを図るための福利厚生費で賄える飲み物などについては、絶対必要な経費だと思う。そうでないと、団員の士気低下は避けられないと感じる。 年額報酬や活動手当を個人に払うというのは、活動する側からすれば大変ありがたいと思う。ただ、その金額の一部を集金し分団会計に入れることは難しいことだと思う。その辺りを考慮していただき、何かしらの方法で分団が円滑に活動できるように、ぜひ支援策の検討をお願いしたい。
委員長：		消防団を代表しての言葉ですが、やはり消防団が円滑に活動していく上での支援策は必要だという意見をいただいた。 それぞれ委員の皆さんにも意見をお伺いしたい。必要資金の詳細など、そのような意見もあれば一緒にお答えをいただきたいと思う。
委員（団長）：		金額については、装備品が 1 人当たり年間 1 万円程度、福利厚生費が 1 人当たり月 5 千円として、半年分の 3 万円程度がよいのではと思う。
委員 1：		資料をよく見ると、今後消防団は活動を継続できないのではという印象を受けた。現状では消防団を離れて 20 年近く経つので、団の運営に必要な経費がどの程度かというの把握しきれないところがある。 現在、消防団の団員不足と団の運営について一番理解しているのが、二木団長だと思う。ついては、今後どういう体制になろうと団長の意見を尊重したいと思う。 また、必要な金額についても、分団により様々なため、一番団に近く意見を吸い上げていく団長の意見を尊重したいと思う。

委員 2 : 先程、二木団長の意見を聞き、同意見である。その中において、団員、指揮官等の士気、これが一番消防で大事にしなければいけない部分であり、団員の信用を損なうような改革をいきなりすること自体はちょっと疑問だと思う。

どうしてもそういうことをしなければいけないということになれば、我々の考えも反映いただき、支援策の改正をするなどの方法があると思う。

各区や常会とのつながりというものを昔は大事にしており、今もそういうつながりの中で消防団の運営というものができていると思う。そのようなことも踏まえながら支援策を検討してほしい。

また、団員の装備品の購入などに関しては、市で可能な限り対応していただきたいことと、消防委員を含め、団全体の意見を踏まえ、検討した中から意見を吸い上げてもらいたいと思う。

委員 3 : 年額報酬などについて、自分の出身分団に聞いてみました。やはり、一度本人へ支給した金銭を再度徴収するというのは、部長としても困難であるという話が出ております。

補助金に関しては、10人の部だと現状で20万円の補助で運営しているが、その中で今まで通りの部の運営と飲食等を賄っていくのは困難であるというような意見でした。全て個人支給になり、補助金もなくなった場合、団員のモチベーションも当然下がってしまうこともあるため、良い方法で支援をしてほしいと思う。

委員 4 : 国の方針としては、報酬の個人払いということを推奨しているということで、これだけを取り上げてみても、それだけで地域は守れないです。それぞれの地域で活動している団員の方々というのは、自分が暮らすその地域で活動しています。年齢も違えば職業も違う、そういった人達が消防団活動をしています。そのような中で、どうやってコミュニケーションをとっていくのかと思う。

私は詰所での飲食が悪いとは思わない。そのような場で交流し、仲良くなるために大いにやっていただければいいと思う。いろいろな職業の方が幅広くおり、そこから学ぶことも非常に多い。若い人から班長や部長を経験する年齢の方、年配の方々も活動しており、そういったところで話せる唯一の組織だと思う。報酬については、個人に支払ったものを再度集金は困難だと思うので、市の方で運営に対する支援を考えてほしい。

僕はどちらかといえば、それぞれの団は事業計画を立てると思うので、年間手当のような形で支給するのはどうかと思う。市で設置している組織隊であれば、その計画に基づく手当のような形で支出し、年度末に残金が出れば返還という形がよいのではと思う。

いずれにしても、部で交流ができるよう、活動費について積極的に市としても支出をしていただきたいと思う。

委員 5 : 消防団の運営を支援するための活動費について、私は必要だと思う。

福利厚生関係は、活動の多い部のほうが金銭的には多くなり、少ない部は使わない。活動の多い部は、ポンプ操法の訓練も実施しているため、それに対し、今後支給する活動費が少なくなると、消防団は危ないなという気持ちを持っている。

委員 6 : 先輩委員の意見を聞きながら思うことは、今まで支給されていたものは継続していくべきで、金額についてはまだ少ないと感じている。

消防団は地元に住んでいる若い人から年配までおり、年の差のある組織である。これが大変大事なことであって、これから安曇野市を背負って立つ大変重要な一員になると思う。これからの人たちを大事にするためには、飲食などで気持ちを一緒にしていただき、有事の際には結束して活動するということが今後につながってくると思う。

委員 7 : 資料を見ると、各分団の運営状況はそれぞれ違うと思う。私の地元分団の場合は近所でしょっちゅう顔を合わせており、年額報酬の36.5千円を年末に全員から徴収するそうです。その中で、とりあえず今後の運営を行ってみるという話を聞いております。

委員 8 : 地元の分団から聞いたところ、全体で使う運営費を会費として各自徴収するというようなお話を聞きました。ただ、地域のために働いている消防団に今後新人が入ってくれなくなると思う。

金額の話については、団長が消防団に携わり把握しているところだと思うので、団長のご意見を参考に金額など決めていただければいいかなと思う。

委員（署長）： 私ども常備のほうからさせていただいても、消防団の活動、非常に助かっております。常備だけではとてもマンパワーが足りないところを、常に二木団長はじめ安曇野

市の消防団員に活動を支えられながら活動しているところでございます。それも踏まえて、皆さんたちのお話を伺った中で、必要な大切な活動資金だと思いつつ、ただ、金額というのも非常に大きいもので、こんなにかかっているのだと正直改めて驚いたところです。

私も役人ですから、予算の中で仕事をしています。担当からお話があったとおり、補助金、交付金というものに対して非常に難しい判断を求められるんだろうというところだと思う。ぜひ消防団の円滑な運営と今後の活躍のため、職員の皆さんが負担にならない中で、何とかいい案を見つけていただければありがたいと思う。

委員長： 皆様からご意見頂戴しまして、本当にありがとうございました。

たくさんのご意見が出まして、簡単にはまとめられないかと感じたのですが、消防団活動、また、そのためにはどうしてもコミュニケーションを図る必要があるというようにご意見が多かったと思う。そのためには、団員同士の交流、こういったものは欠かせないと、そんなところがあったかと思う。

その様な中、今までどおりの活動をするためには同額、またはそれ以上の支援が必要ではないかという意見も出ておりました。

また、こんな状況では団員も集まらない、勧誘するにも幹部の皆さんが本当に苦勞する。そんな状態ができてしまうのではないかというようなことも懸念されるご意見が出ておりました。

今の意見を込めまして答申の中に盛り込んでいきたいと思います。

事務局から何か意見があればお願いいたします。

事務局： 貴重なご意見いただき大変ありがとうございました。

どういった形で分団に支援ができるかというところは、もう少し研究させていただきたいと思う。例えば1つの案として、互助会という組織、安曇野市職員も職員互助会というものがあり、その互助会が福利厚生事業を展開するといったような趣旨の任意の団体によりという方向も考えています。その辺りも参考にさせていただきながら、様々な方面からもう少し検討させていただきたいと思います。

委員の皆様のご意見をお聞きし、一番感じたのは、やはり分団に運営費等の支援を行わないと消防団活動が成立しないだろうと感じましたので、しっかり事務局のほうでも研究してみたいと思います。ありがとうございます。

委員長： まとめる中で、委員全員が安曇野市消防団の活躍について、これだけ応援していただいているということを強く感じましたので、委員会としても何とか消防団の皆さんが不自由なく活動ができる支援策を研究してほしいと願っております。皆さんの意見、本当にありがとうございました。

次回は、本日の意見を答申書案としてまとめまして、手段や方法など最終的なところを協議いただければと思います。

次回の日程は、10月18日（火） 18時30分からとする。